

校正の後に

△二月となれば寒さも絶頂、やがて寒いながらも一脈の春意はわづかに土をもたげた草の芽からも看取されるであります。

△二月はたい寒きが故に愛せらるべきであります寒さにつつかつて行く覺悟がある時、人は二月に對して私かに感謝の念を禁じ能はぬであります。それは己を引き締めてくれる恩人であります。

△本號の卷頭語「保姆その人」「何を以て導かんとするや」は目下の幼稚園をして生氣ある上にも生氣あらしめ、光彩ある上にも光彩あらしめんと努めらるゝ倉橋先生の周匝なる言葉であります。幸ひに讀者の御熟讀を望む次第であります。

△「紀元節と幼稚園」は締切期日切迫のため、地方の幼稚園から、御意見を伺ふことの出来なかつたのを遺憾といたします。今後隨時この種の問題に就て諸幼稚園から御意見を伺ふことにいたしました

と思ひます。

△本誌も追々ジャーナリスチック——勿論いゝ意味での——になつて行くべく編輯會議の際打合はされて居ります。頭で書き手で書く以外に足で書き目で書かうと言ふのです。これは前々から久留島先生や岸邊先生から御注告に預つた所で、本誌が諸先生の御意見に基いて漸次改善せられて行くことは誠に喜ばしいことであります。

△本誌に「節分の話」を書いて下さつた村尾氏は每號この種の年中行事に就て御執筆下さることになつて居ります。

△みなとの匿名の下に每號鋭利な幼稚園觀察をものされる某氏の「七不思議」は大分評判になつて居ります。これは次號で完結します。

△菅原先生の「色彩の心理」は非常に有益な文字であります。該記事は私かに本誌の誇とする所でございます。まだ十回位は續く豫定でございます。(記者)